



◆試合結果

予選リーグ

2-1 対習志野 (千葉)

決勝トーナメント

2回戦

2-1 東海大四 (北海道)

3回戦

2-1 対習志野 (千葉)

準々決勝

0-2 対大塚 (大阪)

0	18 - 25	2
	21 - 25	



写真 インターハイの試合の様子

8月3日〜7日に福岡県、飯塚市で行われた北部九州インターハイで、男子バレーボール部が、平成19年佐賀インターハイベスト4以来のベスト8に進出しました。

伝統の「執念バレー」復活!

6年ぶりベスト8進出

「執念の雄物川バレー復活」

男子バレーボール部

監督 宇佐美 義和

平成25年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技へ19年連続出場が決定してから、暑さ対策を例年以上に積んで大会に臨みました。新潟・大阪・山口での合宿を取り入れながら、福岡県飯塚市の会場に入りました。この間なかなかチームの調子が上がらず、試合前日にメンバーを入れ替えるという苦肉の策を取るようになりました。しかし、結果的にはこの策が、チームに若干の安定感を与えました。

予選グループは、関東大会2位の習志野高校と対戦しました。ビデオ分析で、苦しい戦いになると予想をしていましたが、実際に戦ってみるとそれほど力の差は感じませんでした。しかし、第1セットは本校が受け身になりすぎていたことが失セットに繋がりました。第2セットは選手たちもいけると感じており、ブロックの指示、レシーブの位置が徹底して対応できたこと、そしてエースの川村・鈴木並びにセンター陣が得点を重ねてくれました。苦しい状況での主将川村、リベロ佐藤の最後まで気迫溢れるプレーが勝利に繋がったと感じています。また試合は2日間とも空調設備のない体育館で大変苦勞しました。今大会は選手たちの精神的成長を感じさせてくれた大会でした。今大会のベスト8は雄物川バレーの執念と来年度に繋がる可能性を感じました。

インターハイ終了後、14日後には国体予選です。気持ちのリフレッシュを考え、もう一度原点に戻りトレーニングから取り組みました。月に二度もピークを作り、持続させることは困難な面もありましたが、国体出場への執念が他県選抜チームからの勝利に繋がりました。

国体では、ユニホームに「秋田」のネームを背負い勝つところが、秋田へ貢献する

ことと考へ、選手と共に使命感と執念で戦う覚悟です。厳しい戦いになりますが、御声援よろしくお願ひいたします。

「執念バレーで一戦必勝」

男子バレーボール部

主将 川村 悠希(3C)

ベスト8を決めた瞬間……。今思うと、「嬉しい」の一言しかできてきません。例えようのない感動を、私は味わったのだと思います。チームは大会に臨むにあたり、例年以上に厳しいトレーニングを行ってきました。中でも、グラウンドトレーニングは過酷なものでした。それを乗り越えたことで、夏場の試合でもバテずキレのある体を作ることができました。また何よりも「自分たちはこれだけやってきた」という我慢強さをもつことができました。

しかし、大会前の事前合宿では負けてばかりで、決して良い状態ではありませんでした。そして迎えた初戦、全国の舞台が初めての選手も多く、そうした選手をいかに冷静にプレーさせられるかが私の課題でした。私は意識的に声をかけることもそうですが、自ら気遣

鈴木祐貴(1年)世界ユース選手権出場!

6月27日〜7月7日までメキシコで開催された、第13回世界ユース男子バレーボール選手権大会に、本校の鈴木祐貴君が出場しました。メンバー最年少ながら全試合に出場し、次回大会では、エースとして期待されています。

鈴木選手に一問一答

Q 世界各国との試合で感じたことは?

A 日本人と違い外国人は、大きい人がたくさんいたり高く飛んだりする人が多くいた。ブロック・スパイクは強かったが、レシーブでは、外国人に勝てると思った。

Q 一番印象に残っている(自信になった)プレーは?

A センターで出場したときのクイック。大会を通して自分に必要なものと、そのためにどうするか? 速さ・レシーブ力・サーブ。学校の練習を必死にやる。

A Q 今後の目標は?

A 雄物川高校バレー部としての目標はセンターコートに立ち、ベスト4の壁を打ち破ること。

A 代表では今回あまり結果を残せなかったもので、次は残したい。



写真 日本バレーボール協会ホームページ



のこもったプレーを心掛けました。結果としてベスト8まで勝ち上がる事ができましたが、チームの一人ひとりが先を見すぎず、目の前の試合に勝つことだけを考へてプレーした結果だと思ひます。

今月末には、国体が控えています。ベスト8という結果に満足せず、監督が日頃からおっしゃられるように、「やらされる練習ではなく、考へる練習」をしていきたいと思ひます。特に課題であるサーブキャッチの精度とコンビネーションの質を高めるように練習し、さらなるチーム力の向上を目指します。

昨年の国体では、初戦敗退しています。私はレギュラーとして、国体を経験しているため、その悔しさを知っています。また私にとっては、高校生として出場する最後の国体です。インターハイ同様に、目の前の一戦一戦に集中し、「執念」のバレーを展開していきたいと思ひます。

最後になりますが、全校生徒のみなさんや先生方、地域の皆様、インターハイの応援ありがとうございました。感謝の気持ちを「国体での勝利」という形でお返しできるように頑張りますので、これからも応援をよろしくお願ひいたします。

雄高の歴史に新たなページが刻まれました。

快挙！PC同好会！ ワイプロ全国大会出場！

普通科では秋田県初！

8月6日・7日に東京都にある高千穂大学で行われた平成25年度第60回記念 全国高等学校ワイプロ競技大会に、本校PC同好会が、普通科としては県内で初めて出場を果たしました。

「ワイプロ競技大会に参加して」
PC同好会

顧問 熊谷 尚

6月8日、第24回秋田県高等学校ワイプロ競技大会が湯沢翔北高校を会場に、12校18チーム、合計59人が参加し行われました。結果は団体戦で「初出場で初優勝」、個人戦でも、3年A組荘野成美が3位、3年B組の小松詩歩が4位に入賞を果たしました。

このワイプロ競技大会は、普段の授業や放課後の活動で使い慣れたパソコンやキーボードを会場に持ち込み、制限時間10分間で約3000字の課題文をどこまで打ち込めるかという競技で、団体戦は3人一組の合計を競います。課題文を入力する際に、「一文字誤ると10字分の減点」、「一行全てを抜かすと失格」などというルールのもと競技が行われます。10分間いかに速く、正確に打つかという点で採点が行われ、漢字の読み方が分からなかったり、文章の意味を考えないで打ったりしていると時間のロスや減点につながり高得点をたたき出すことができなくなるのです。

昨年の新人戦では21字の差で3位という悔しい結果に終わりました。そのため、日頃の情報処理の授業をさらに大切にすることや放課後の練習を徹底することで、驚くほどタイピングのスピードが増すのと同時に、速読ができるようになりました。



PC同好会のみなさん

また、競技時間がたったの10分間のため、そこで力を発揮するためには瞬発力と集中力が必要です。緊張したなかで、10分間打ち込める精神力の強化や難易度の高い課題文を何度も練習することで、徐々に力を付けることができました。生徒は日頃学習しているワイプロで、全国大会に行くとは考えていなかったと思います。全県・東北・全国大会と経験を積むことに、人間的にも成長し、何か大きな財産を得たような自信が感じられました。そして、このような経験ができたことを誇りとして、何事にも粘り強く自分の可能性に限界を作らず挑戦してほしいと思います。

最後になりましたが、秋田県大会での優勝や東北大会、全国大会出場の際に、タイマー係を喜んで引き受けてくれた生徒、地域及び保護者の皆様、そして励ました声を掛けていただいた同窓会の皆様や教育振興会の方々、全ての雄物川高校の関係者に感謝申し上げます。御支援本当にありがとうございます。

まずは一冠奪取！

全県新人女子砲丸投げ優勝

9月5日〜8日に行われた、全県新陸上大会で、1年B組佐々木亜里奈さんが女子砲丸投げで一位に輝きました。(以下は亜里奈さんのコメントです)



全県新人、決勝での1投

「全県新人を終えて、東北大会
陸上競技部 佐々木 亜里奈
に向けて」

青森に雄高サウンド響く 東北大会金賞受賞

「努力は人を裏切らない」
吹奏楽部 部長 佐藤 美祐 (3B)
私たちが吹奏楽部は、先日の秋田県大会で最優秀賞をいただき、東北大会への出場権を得ることができました。
今、私たちが音楽室や各学年の教室等を使って練習ができるのは、「当たり前」のことではありません。生徒のみなさんは放課後、吹奏楽部の練習場所として教室を空けて下さっています。このような生徒のみなさんや先生方、地域の方々などたくさんの方がいるからこそ、私たちは良い環境で活動ができるのだと改めて感じています。

秋田県高等学校新人陸上大会が9月5日から8日までの4日間県営陸上競技場で行われました。私は3日目の女子砲丸投げに出場しました。予選一投目で8m81cmを投げ、通過記録を突破できました。しかし、納得のいく投げではありませんでした。決勝は午後から行われ雨の中の試合となりました。雨ですべり、ファールになるのではないかと不安がありました。しかし、練習で調子が良かったので、練習でやったことをすべて出せるようにしようと決勝に臨みました。5投目まで記録は9m台と良くありませんでした。しかし6投目で、自己ベストの10m27cmを出し優勝することができました。優勝することができたのは、家族や先生、友だち、陸上部のみんなのおかげだと思っています。大会中に熱を上げた時も、陸上部のみんなや先生方が支えて下さいました。ありがとうございます。

東北大会では、今まで練習してきたことをすべて発揮し、入賞できるように頑張りたいです。応援よろしくお願いします。

その他の部活動も活躍しています。

- 野球部：秋季全県大会出場 (三季連続出場)
- 女子バレーボール部：全県総体第3位
- 男子ソフトテニス部：県南総体団体第3位
- 卓球部：県南総体女子団体第3位
- 柔道部：県南総体第2位 菊地怜実 (3B)
- 第3位 佐藤史織 (3A)
- 全県総体第3位 菊地怜実 (3B)
- 陸上部：県南総体女子砲丸投げ第1位 佐々木亜里奈 (1B)
- 高校総体女子砲丸投げ第2位 佐々木亜里奈 (1B)
- (東北総体出場)